

第1号議案

令和4年度事業報告及び収支決算に関する件

〔I〕令和4年度事業報告書

自 令和4年 4月 1日

至 令和5年 3月 31日

【令和4年度の重点事項】

1. J A S・表示制度（以下「J A S制度等」という。）を巡る様々な動向を踏まえ、情報収集を行うとともに、農林水産省はじめ関係省庁の指導の下、関係団体と連携を図りながら J A S制度等の運用について積極的な役割を果たすよう努力した。
2. 関係団体の協力を得て、下記の諸事業の実施等を通じ J A S制度等の普及啓発及び情報発信等に努めた。

【諸事業の実施】

1. J A S 普及啓発事業

(1) 情報誌の発行・配布による広報活動

情報誌「J A Sと食品表示」については、J A Sや食品表示に関連する情報を中心に、有機や林産関係の内容も併せて毎月1回発行し、関係団体・事業者、関係行政機関及び消費者団体等に配布した。昨年に引き続き J A Sの普及啓発を目的とした J A Sマーク付きの付箋を広く配布するとともに、会員からの要望に応じて随時必要個数を提供した。加えて、令和5年度に配布するための「J A Sマーク付き蛍光ペン」を新たに作成した。

J A Sマークの意味を子供達やその親世代に知ってもらう事を目的として、主に小学生を対象とした「夏休みの自由研究」のコーナーをホームページや情報誌に掲載した。身の回りにある3種類の J A Sマークを探し、台紙に貼ったものを応募してもらう企画で、応募者には抽選で図書カードなどをプレゼントした。子供達からは、「スーパーやホームセンターで調べた」「J A S協会のホームページを見て予習してから探した」などの声が寄せられ、普段はあまり J A Sに興味を持たないであろう子供達を含めた幅広い年齢層に J A Sマークを広めることにつながった。

情報誌のより一層の普及を目指し、各号の記事に関連する非会員の団体・企業に毎月DMとして情報誌を送付し、会員や定期購読者の拡大に努めた。

(2) ホームページの充実及び最新情報のメール配信

JAS協会のホームページの内容をより一層充実させることで、会員だけでなく、非会員の方々にもJAS制度や講習会の開催等に関する有益な情報を提供することに努めた。

また、団体会員に対して迅速な情報の提供が必要な際は、メールにて最新情報を発信した。

(3) 媒体広告

JAS協会チャンネルをホームページに掲載し、JASを活用している事業者をヒアリングした「JAS活用事例紹介動画」とJAS活用事例やJASの取得手順が分かる「JAS活用マニュアル」を公開した。また会員からの要請、広告効果などを総合的に判断し、JAS制度、規格などの広告を掲載した。

(4) イベントへの出展等

イベント概要	当日の様子
<p>第17回食育推進全国大会inあいち 期日：令和4年6月18日～19日</p> 	<p>3年ぶりの開催となった今大会は、関係団体・企業の協力のもと、JASマーク品・ポスター・パネル等の展示を行った。当会ブースでは、恒例の魚釣りゲームを実施し、参加した子供達に景品として、JAS品を配布した。また、ブース内を見学された消費者には、JASについての説明を行うなど、JAS制度の普及啓発に努めた。</p> <p>(来場者数：2日間で延べ 23,515 人)</p> 

<p>農林水産省「消費者の部屋」特別展示 期日：令和4年7月19日～22日</p> 	<p>農林水産省が行った「消費者の部屋」のJASの特別展示で、JAS製品の紹介とJASのしくみや新たなJASの取組を紹介するイベントに協力した。「選んで安心！JASマークは信頼の証」のテーマで、関係団体・企業から提供されたJAS製品が種類ごとに分かりやすく展示された。丸JAS、有機JAS、ノウフクJASが付いた様々な飲食料品に加えて、普段見る機会が少ない畳表や林産物のJAS製品のコーナーも設けられ、JAS製品の広がりをも新たに発見した良い機会となった。</p> <p>(来場者数：4日間で延べ250人)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. J A S 講習事業等

(1) 食品製造業品質管理担当者等一般講習会の開催

一般加工食品のJAS認証申請製造業者及び認証製造業者の品質管理担当者等を対象とする一般講習会を次表のとおり実施した。また、今年度も引き続きコロナ感染予防と遠距離からの参加を容易にするため、同時ライブ配信を行った。

開催日（2日間）	場 所	受講者数	内 容
【第1回】 令和4年 5月24日～25日	主婦会館 （東京）	会場 26名 WEB120名	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A S 制度について ・ 食品の表示について ・ 品質管理概論 ・ 食品の安全性 ・ 食品工場における衛生管理 ・ 品質管理活動の実際 ・ 確認テスト 「J A S 制度と食品の表示」
【第2回】 令和4年 10月4日～5日	Daiwa 晴海ビル （東京）	会場 20名 WEB103名	
【第3回】 令和5年 1月31日～2月1日	主婦会館 （東京）	会場 28名 WEB 106名	

(2) 有機関係 J A S 講習会の開催

有機加工食品の格付（又は格付の表示）を行う生産行程管理者、小分け業者、外国格付表示業者及び輸入業者を対象とする J A S 講習会を次表のとおり実施した。また昨年度に引き続き今年度も2回開催し、何れも同時ライブ配信を行った。

開催日	場 所	受講者数	内 容
【第1回】 令和4年 11月1日	ジャパン ライム (東京)	会場 5 名 WEB 35 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総論 <ul style="list-style-type: none"> ① J A S 法及び有機食品の検査認証制度 ② 有機加工食品の日本農林規格及び認証の技術的基準 ・ 各論（業種ごとにコース分け） <ul style="list-style-type: none"> <u>A コース</u>（生産行程管理者・小分け業者対象） <ul style="list-style-type: none"> ① 生産行程の管理又は把握の方法及び格付の方法（外国格付表示を含む） ② 小分けの方法及び格付の表示の方法 <u>B コース</u>（輸入業者対象） <ul style="list-style-type: none"> ③ 輸入品の受入れ・保管の方法及び格付の表示の方法
【第2回】 令和5年 2月17日	ジャパン ライム (東京)	会場 10 名 WEB 52 名	

(3) 特別セミナー等の開催

(ア) 情報提供の一環として、当協会会員を中心に、特別セミナーを次表のとおり開催した。
何れも同時ライブ配信を行った。

開催日	場 所	参加者数	内 容
令和4年 8月31日	主婦会館 (東京)	会場 14 名 WEB134 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なぜ、いま SDGs に取り組む必要があるか」 講師：平原 依文 氏 WORLD ROAD 共同代表 ・ 「マクドナルドの SDGs の具体的取り組みとその意義」 講師：岩井 正人 氏 日本マクドナルド(株) コミュニケーション&CR 本部 サステナビリティ・ESG部 マネージャー ・ 「平原氏・岩井氏 フリーディスカッション」
【林産】 令和4年 9月29日	ジャパン ライム (東京)	会場 7 名 WEB 62 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界の木材需給の動向と日本の林産業界の今後」 講師：立花 敏 氏 筑波大学 生命環境系 准教授 ・ 「木材需給の変動への対応について」 講師：鈴木 清史 氏 林野庁 林政部 木材産業課 総括課長補佐

※所属・役職名は、開催当時のもの

(イ)時宜に適した食品表示セミナーを年4回開催した。

3. 農林水産省補助事業

(1) 令和3年度JAS・JFS規格の認証支援に向けたモデル実証事業

(令和4年1月～令和5年3月)

将来の輸出拡大に向けたステップとして、有機JASの認証事業者に対し認証費用を支援する補助事業で、支援対象者を公募、受付、審査したのち補助金総額2,447万円を317事業者に交付し、その対象事業者に対して実施した「有機JAS制度の運用改善効果の調査」結果を集計、分析した報告書を提出した。

(2) 令和4年度JAS・JFSの普及対策事業

(令和5年1月～)

有機JAS認証取得等の取組と申請書類のオンライン化を支援することで有機JAS制度の運用改善効果を実証する事業で、支援対象者に対して補助金の交付と「有機JAS制度の運用改善効果の調査」を行い、申請書類のオンライン化の実証に向けて検討会を実施する。令和5年3月末までに補助金交付のための実施規定・申込要領作成、説明会等の公募準備とオンライン化の検討会の委員の選定等を行った。繰越申請が認められた為、令和5年度内に全ての業務を終了させる予定。

4. 農林水産省委託事業

(1) 令和4年度JASの活用・制定推進調査委託事業

(令和4年4月～令和5年3月)

食料・農業・農村基本計画において、農業・食品産業の競争力の強化を図り、食料供給の基盤を維持・強化するためJASの制定・普及を進める事業で、優良事例のヒアリング、JAS活用マニュアルの作成、研修会の開催、JAS化のニーズ・シーズの収集や検討等を実施した。

(2) 令和4年度既存JASの国際統合化に向けた調査等の委託事業（JSA協会からの再委託）

(令和4年5月～令和5年2月)

輸出力強化のためにJASの国際標準化を進める事業で、既存JASと国際規格を比較検証し、日本の強みにつながる基準であるかどうかを検討して今後の方針を策定するための委員会の設立と国際規格調査等を行った。

5. 消費者庁委託事業

(1) 令和4年度新たな加工食品の原料原産地表示制度に係る表示実態調査

(令和4年5月～令和4年12月)

昨年度に引き続き、現在流通中の商品について、平成27年施行の「食品表示基準」への対

応状況と平成 29 年施行の「新たな加工食品の原料原産地表示制度」の表示状況等の調査と分析を行う為、スーパーの 1 店舗において商品 1,461 点の義務表示事項等を撮影し、その画像を整理、分析後、調査報告書を提出した。

(2) 食物アレルギーの推奨表示等に関する実態調査の実施及び集計業務

(令和 4 年 6 月～令和 4 年 9 月)

食物アレルギーの推奨表示の実態調査のアンケートを食品関連事業者に対して実施し、その回答 (884 件) を整理、集計した報告書を提出した。

6. J A S 規格集等作成販売事業

「ハンディ版 食品表示基準 改訂第 5 版」を発行した。また、前回の追録実施 (令和 4 年 2 月) 以降に J A S 規格等が新たに制定及び一部改正された品目について、その内容を整理した J A S 規格集 (9 冊) を追録として発行した。

7. 支援業務等事業

有機 J A S 認証機関設立のためのセミナーや J A S 制度の研修への講師派遣など、J A S 制度や食品表示などに関する指導・教育・研修等の支援業務を積極的に行った。

8. 諸会議の開催

(1) 総会

当協会定款に基づき、次表のとおり総会を開催し、議案について可決承認された。

期 日	場 所	議 案
(定例) 令和 4 年 6 月 23 日	ホテルモン トレ銀座 (東京)	・ 令和 3 年度事業報告及び収支決算に関する件 ・ 会費及び賛助会費の額並びに納入方法に関する件 ・ 役員候補に関する件

(2) 理事会

当協会定款に基づき、次表のとおり理事会を開催し、議案について可決承認された。

期 日	場 所	議 案
【第 1 回】 令和 4 年 5 月 12 日	書面決議	・ 令和 3 年度事業報告及び収支決算に関する件 ・ 会費及び賛助会費の額並びに納入方法に関する件 ・ 役員候補に関する件 ・ 令和 4 年度通常総会の開催に関する件

【第2回】 令和5年 3月14日	製粉会館 (東京)	・ 令和5年度事業計画及び収支予算に関する件
------------------------	--------------	------------------------

(3) 連絡協議会

当協会の団体会員の出席を得て、次表のとおり連絡協議会を開催した。

期 日	場 所	主要議題
令和4年 8月25日	製粉会館 (東京)	<p>1. 団体等の現状報告及び意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場調査におけるリモート調査の取組についての情報共有 ・ J A S 見直しに対する実施状況についての情報共有 ・ 消費者庁の「食品添加物不使用表示ガイドライン」への各団体の対応についての情報共有 <p>〈発言者〉</p> <p>(一社) 全国削節工業協会 常務理事 小崎 好春 氏 (一社) 全国トマト工業会・日本ソース工業会 専務理事 小後摩 美絵 氏 (一社) 日本果汁協会 主幹 内山 純一 氏 (一財) 日本醤油技術センター 理事 松本 秀樹 氏 (一社) 食肉科学技術研究所 専務理事 猪口 由美 氏 全国味噌工業協同組合連合会 参事 加藤 妙子 氏</p> <p>2. 行政との意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農水、消費者庁、F A M I C の担当官と第一部についての意見交換会 <p>〈行政出席者〉</p> <p>農林水産省 食品製造課 基準認証室 伊藤室長、牟田規格専門官、山口課長補佐、吉田係長 消費者庁 食品表示企画課 宇野課長補佐 F A M I C 規格検査部 渡部規格調査課長、渡邊登録審査課長</p>
令和5年 1月19日	製粉会館 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林野庁 最近の林野政策の動向について 林野庁 林政部 企画課 宮脇課長補佐 ・ 林野庁 令和5年度の予算について 林野庁 林政部 木材産業課 木材製品技術室

		<p>高木課長補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな JAS 制度施行 5 年の進捗状況 農林水産省 基準認証室 伊藤室長 ・ J A S 新規格の動向について 農林水産省 基準認証室 安井課長補佐 ・ 農林水産省 令和 5 年度の予算について 農林水産省 基準認証室 山口課長補佐 ・ J A S 法に基づく適合性評価と J A S a f f の適合性評価 について F A M I C 登録審査課 渡邊課長
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------